

## 平成25年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	発達心理学 (Developmental Psychology)	授業コード	E031401
担当教員名	高橋 淳一郎		
配当学年	2	開講期	前期
必修・選択区分	選択	単位数	2
履修上の注意または履修条件	ピアヘルパーの資格取得を目指す学生は必ず履修してください。		
受講心得	遅刻、講義中の携帯電話の使用、おしゃべり、無断外室など、他の学生に迷惑のかかる行為は禁止です。大学生として最低限のマナーは守って履修してください。 自分の今までとこれからの生き方を考えるきっかけとなるように積極的に参加してください。		
教科書	よくわかる 発達心理学 無藤隆・岡本祐子・大坪治彦 編 ミネルヴァ書房		
参考文献及び指定図書			
関連科目	心理学、臨床心理学、社会心理学、精神保健学		

授業の目的	人は一生涯を通じて成長発達を続けるものです。この講義ではそれぞれの発達段階において人間がどのように変化し、様々な能力を身に付けていくのかということを中心に学んでいきます。その中でこれまでの自分を見つめなおし、これからの自分の姿と生き方を想像できるようになってもらいたいと考えています。
授業の概要	この講義では人の命が母体に宿るところから年老いて生涯を終えるまでの人間の成長発達についてお話していきます。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
<b>第1週：オリエンテーション・発達段階と発達課題</b> 人間の発達を考える上での基本的な理論と段階について考えます。	補助プリント リアクションペーパーの提出
<b>第2週：周産期</b> 産まれる直前直後の赤ちゃんの様子について、胎児期から追って示していきます。映像なども見てもらい、理解を深めます。	テキストp2～p9 リアクションペーパーの提出
<b>第3週：新生児期</b> 産まれたばかりの赤ちゃんにも様々な能力があることがわかっています。赤ちゃんが外界をどのように認識しているのかお話しします。	テキストp10～21 リアクションペーパーの提出
<b>第4週：乳児期①</b> 赤ちゃんの表情に隠された意味と、アタッチメントの大切さについてお話しします。	テキストp22～p27 リアクションペーパーの提出
<b>第5週：乳児期②</b> 乳児期に言葉がどのように成長するのか、そのステップについてお話しします。	テキストp28～p35 リアクションペーパーの提出
<b>第6週：乳児期③</b> 乳児期における体の成長と遊びの意味についてお話しします。	テキストp36～p41 リアクションペーパーの提出
<b>第7週：幼児期①</b> 幼児期における言語発達と遊びについてお話しします。	テキストp42～p61 リアクションペーパーの提出
<b>第8週：幼児期②</b>	

幼児期の認知発達を中心にお話します。		テキストp62～p81 リアクションペーパーの提出
<b>第9週：児童期①</b>		
学校への適応の問題と、遊び、そして認知発達についてお話します。		テキストp82～p91 リアクションペーパーの提出
<b>第10週：児童期②</b>		
児童期の子どもの成長発達に関係する環境要因としての親、先生、友人、遊びやテレビなどの影響について考えます。		テキストp92～p101 リアクションペーパーの提出
<b>第11週：青年期</b>		
この時期に訪れる第二次性徴によって起こる心身の変化と、それに対する適応の問題について考えていきます。		テキストp102～p121 リアクションペーパーの提出
<b>第12週：成人期初期</b>		
大人となって社会に適応していくこと、さらに恋愛や結婚観の変化などについてお話します。		テキストp122～135 リアクションペーパーの提出
<b>第13週：成人期中期①</b>		
親となった場合の子どもとの関係、仕事を通じての社会との関係、そして人生の生きがいとは何か考えていきます。		テキストp136～p140 リアクションペーパーの提出
<b>第14週：成人期中期②</b>		
いわゆる中年期危機を中心に、成人期中期から老年期にさしかかるステージにおける心身の変化とそれへの適応の問題について考えていきます。		テキストp141～p149 リアクションペーパーの提出
<b>第15週：老年期</b>		
我が国における高齢化時代を生きていくために老年期に必要なことは何か、また、高齢化社会だからこそ問題となっている介護にまつわる課題、最終的に死を受け入れる老年期最大のテーマについて考えていきます。		テキストp150～p161 リアクションペーパーの提出
<b>第16週：期末試験</b>		
これまでの内容について論述形式の試験を実施します。自筆ノートおよび講義内に配布したプリントは持ち込み可とし、試験時間は60分です。		
授業の運営方法	(1)授業の形式	「講義形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
備考		

<b>○単位を修得するために達成すべき到達目標</b>	
<b>【関心・意欲・態度】</b>	①人間の一生涯について概観できる。
<b>【知識・理解】</b>	②人間の発達段階とそれぞれの発達課題について理解できる。
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b>	③それぞれの発達段階における特長を説明できる。
<b>【思考・判断・創造】</b>	④自らのこれまでの成長発達について理解し、それに対する親の関わりを考えることができる。 ⑤これからの自分の発達について想像し、必要な準備ができる。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等(テスト)	レポート・作品等(提出物)	発表・その他(無形成果)	
<b>【関心・意欲・態度】</b> ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		5点	20点	
<b>【知識・理解】</b> ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。	30点	5点		
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b> ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。	10点	5点		
<b>【思考・判断・創造】</b> ※「考え抜く力」を含む。	20点	5点		
<b>(「人間力」について)</b> ※以上の観点到、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等(提出物)	毎回の講義の最後にリアクションペーパーを提出してもらいます。その内容について点数化し、評価に加えます。評価方法は以下の通りです。 A 講義の内容をよく理解し、振り返りながら自分の考えをしっかりと述べている。 B 講義の内容をよく理解し、振り返ることができる。 C 講義の内容をだいたい理解し、振り返ることができる。 D 講義の内容を一部理解し、振り返ることができる。
発表・その他(無形成果)	出席点を20点満点とし、1回の欠席ごとに2点を減点する方式で評価に取り入れます。